

臨床病理検討会（CPC）初期臨床研修プログラム

I. 一般目標（GIO：General Instructional Objectives）

研修医自身が何らかの臨床上の関わりを持った症例について、臨床経過を十分に検討して問題点を整理し、それを剖検結果と照らし合わせて総括することにより、症例の病態生理を考え、患者を全人的に診ることを学ぶ。医療記録としての剖検報告書の作成だけでなく、CPC への症例提示を通じて問題対応能力を身につける。

II. 行動目標（SBO：Specific Behavioral Objectives）

1. 病理解剖の法的制約・手続きを説明できる
2. ご遺族に対して病理解剖の目的と意義を説明できる
3. ご遺体に対して礼をもって接し、ご遺族の心情を思いやる倫理観や人間性を養う。
4. 臨床経過とその問題点を的確に説明できる
5. 病理所見（肉眼・組織像）とその示す意味を説明できる
6. 症例の呈示ができ、他者に十分な理解が得られるような呈示の仕方を学ぶ

III. 研修方略（LS：Learning Strategies）

1) 対象症例の選択

研修医が何らかの臨床的な関わりを持った剖検症例を対象とする。自ら診断、治療に関与し、臨床的な問題点の解決のためにご遺族から病理解剖の承諾を得た例が最も望ましいが、チーム医療の一員として、診療に関わりを持った症例であれば対象としても良い。

2) ご遺族への説明

研修医が自ら遺族に対して剖検承諾の説明を実施又は、指導医が行う説明に同席する事を通じて実地研修を行う。

3) 病理解剖

病理医の指導のもと所見をとる。なお、研修医は関わりの持たなかった症例に対しても可能なかぎり病理解剖に参加する。

4) 症例呈示

CPC への症例提示の指導は、臨床側は症例を受け持った指導医、病理側は剖検を執刀した病理医が行う。

5) 研修施設

一宮西病院で研修する。